

成人式 あれコレ

成人式って なに？

20歳に達した人を二人前の成人として法律的、社会的に認め、その節目を祝う儀式が今の「成人式」。始まったのは戦後ですが、「成人式」の基となるものは昔からありました。男子は元服、女子は裳着^{もぎ}などが挙げられます。

そして、昭和24年から「成人の日」とし、祝日となりました。現在の成人式は参加率を求める傾向があり、一部の自治体ではお盆や大型連休の帰省に合わせて実施されています。



個性的な 現代の成人式

今の成人式は、新成人自ら企画を行うこともあり、主役である新成人が、一生に度の思い出に残る式を目指し、その時話題の人をサプライズで呼んだり、ふるさとを愛するきっかけとなるよう、新成人自ら伝統芸能を披露したりと、毎年違った個性的な成人式となっています。



成人式の はじまりは？

成人式の始まりは、いつからか知っていますか。

第二次世界大戦直後の昭和21年から始まったそうです。初めて行われた場所は埼玉県蔵市^{わらび}。

戦後の厳しい社会情勢の中、将来を担う若者たちを激励する催し物が企画されました。

「成年式」と命名され、スタートしたと言われています。



成人式の 「日」はいつ？

平成12年にハッピーマNDER^{ンダー}が定められてから「成人の日」といえば1月第2月曜日です。

以前は1月15日と決まっていた連休ではありませんでした。



ななおの成人式いまむかし

昭和の成人式は、厳かな雰囲気の中で、市長や来賓のあいさつをいただき、記念撮影をして終わるという、ありきたりのものでした。

平成に入ってから、行政主導の成人式から、新成人自ら企画運営を行う実行委員会形式となりました。同世代の仲間が関わることで、参加者との一体感が生まれ、心に残る成人式となっています。

こういった取り組み例は少なく、七尾市の成人式は全国から評価されています。その要因は、高い参加率。近年では9割を超えています。(昨年の県内平均72.5%また、内容も素晴らしく全国成人式大賞では9年連続入賞し、平成20年には日本に輝く実績を挙げています。



成人式は 着物？洋服？

成人式の代名詞と言えば女性が着る振袖。振袖を着るようになったのは、高度経済成長期以降のこと。また、豊かになると同時に生活改善運動が盛んになり、地域で振袖を禁止した時代もあったようです。

成人式の思い出ジェネレーション

今の成人式は、新成人が企画などをする聞いていますが、実は私も役場に勤めていたので、成人式の企画などをしていたんです。当時は、厳かな雰囲気の中、式でした。担当を兼ねての参加とか、外から吹き付ける風で、石炭ストーブの煙突のつなぎ目からすが舞い上がり、着物が汚れないかとか、気が気でなかったことを覚えています。また、看板などは、縛ったタオルに墨をつけて、書いたのを覚えています。今思うと考えられないことですね。



田鶴浜町 井上 茂さん(66歳)



中島町 筆安 雪子さん(65歳)



能登島野崎町 秋元 勇二さん(50歳)
能登島曲町 藤井 博文さん(50歳)



後島町 山下 華佳さん(26歳)

当時の成人式は、成人の日(1月15日)が基準だったので、その日以降の誕生日の私は、後輩と一緒に参加したことを覚えています。また、生活改善運動が盛んだったこともあり、ぜいたくなものは控えるという理由から、着物を着ることを許されず、ほとんどの人が集合写真を撮るときだけ着ていました。今では考えられない時代でしたね。そんなこともあり、娘の成人式には、必ず着物を着せてあげたいと強く思っていました。可能性を秘めた新成人の皆さん、おめでと〜ございます。

成人式は、俺たちの第1回目の同窓会だったような気がする。あれから、男女の厄年の時や、中学校が閉校した時など、何かあるたびに自然と仲間が集まるんだよ。俺たちの学年は特に仲がいんだよね。成人式を機に、みんなと大人としての付き合いが続いているという感じがする。今の成人式は市役所任せではなく、成人式に出席する若者たちが企画運営するんだってね。七尾市にとっては誇らしいことだね。七尾の若者たちには、故郷七尾を心から好きになってもらいたいな。

成人式が一番の思い出は、実行委員として携わったことですね。その時のリーダーをはじめ、みんなが「生の思い出となる成人式」絆感謝伝承を、今でも鮮明に取り組んだことを、今でも鮮明に覚えています。その時、私たちが創りたい内容ができるまで、協力してくれた周囲の皆さんには、今でも感謝しています。そして、その経験から大人としての責任感を覚え、今があると思います。私の人生で大きな経験をしたあの時を、10代の皆さんにも経験してほしいです。